

日本臨床検査自動化学会第 32 回春季セミナー 概要

例会長：山崎 正晴 奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部

会期：平成 30 年 4 月 6 日(金)～7 日(土)

会場：ホテル日航奈良 〒630-8122 奈良市三条本町 8-1 TEL:0742(35)5531

各種委員会および意見交換会 平成 30 年 4 月 6 日(金)

奈良春日野国際フォーラム 〒630-8212 奈良市春日野町 101 TEL:0742(27)2630

講演会(セミナー)および機器・試薬セミナー 平成 30 年 4 月 7 日(土)

テーマ：「使いモノになる」検査情報を提供する！ ～臨床検査のユーザビリティを考える～

事務局：〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840

奈良県立医科大学附属病院中央臨床検査部 内

日本臨床検査自動化学会第 32 回春季セミナー事務局

TEL:0744(22)3051 内線 3245, FAX:0744(22)4810, E-mail:kensa@naramed-u.ac.jp

テーマの趣旨

われわれが提供する臨床検査情報はかつてないほど大量かつ複雑になり、また、それらを正確かつ迅速にベッドサイドに届けることが求められている。医師やメディカルスタッフは「蛇口をひねれば、いつでも使える水道水」のように検査情報を捉えており、一方で、われわれは、その「水」の質を高いレベルで維持することに腐心してきた。では、医療の最終目標である「患者の利益」に繋がるように、検査情報は本当に効率的に活かされているだろうか。もし、それが満足しうるものでないのなら、課題はどこにあるのか、また、それを克服するためにどのようなアプローチをすべきなのだろうか。

1990 年代よりユーザビリティという概念が主にマーケティング、IT や製造業の分野を中心に注目されている。ユーザビリティは単に「使いやすさ」「使い勝手」という意味に止まらず、「特定の利用状況において、特定のユーザーによって、ある製品が、指定された目標を達成するために用いられる際の、有効さ、効率、ユーザーの満足度の度合い」(国際規格 ISO 9241-11)と定義され、製品やサービスの「品質」を支える重要な構成要素として捉えられている。この定義におけるユーザーを医師・メディカルスタッフ、製品を検査情報に置き換えてみよう。もし、検査情報が、たとえその精度が高くても、診断や治療に有用でなかったら...もし、その情報が臨床現場で効率的に生かされなかったら...もし、ユーザーがその情報を得るのに煩わしく不愉快にさせるものであったら...検査情報の価値は損なわれ、かつ、医療事故などの患者の不利益をもたらすことが危惧される。

本セミナーは、このユーザビリティの概念とその方法論を臨床検査医学に応用する「てびき」を示し、それを参加者の間で共有することを目的とする。また、セミナー運営の基本方針として、参加者がセミナーで得たことを具体的に日常の臨床検査業務の改善に生かすためのアイデアを提供することを目指す。

プログラム案

1. 開会の挨拶

2. シンポジウム I : 医療機器・検査情報システム ↔ 検査室のユーザビリティの課題

ねらい: 医療機器や検査情報システムを製造・販売するメーカーは、その設計過程において「検査室でのユーザビリティ

ー」の問題は避けて通れない。機器・システムのメーカーのシンポジストから、検査室での「使われ方」に対してどのような取り組みをしてきたか、また、今後の新たな展開について発表していただく。また、機器・システムを使用する技師のシンポジストに現状において抱えている課題や要望について発表していただく。

3. **機器・試薬セミナー**： 内容未定

4. **ランチョンセミナー**： 内容未定

5. **特別講演**： ユーザーエクスペリエンスの研究者を招聘し、ユーザビリティの概念とその展開について解説していただく予定

6. **シンポジウムⅡ**：**検査室 ↔ ベッドサイドのユーザビリティの課題**

ねらい：医師やメディカルスタッフ、さらに、電子カルテシステムのベンダー、医療安全の専門家をシンポジストに迎え、それぞれの観点から、検査情報をベッドサイドで利用する際の課題について指摘していただき、それを克服する方法について討論していただく。

7. **閉会の挨拶**